

「災害から町民の生命、身体、財産を守ること」。これが消防団の任務です。それは、消火活動などに限ったことではありません。河川の氾濫など、豪雨災害にも備え、平時から訓練や点検などを行い、出水期にも備える必要があります。



市街地の内水氾濫を想定した水難救助訓練。救助艇を使用して、オールでの手漕ぎ操作や船外機の操作方法を学ぶ訓練などを実施しています。



水門は、高潮や河川の水位が上昇した際に、ゲートを閉めることによって、住宅街や道路への浸水を防ぐ役割があります。

所轄区域に水門を有する、窪川分団、志和分団、興津第1・3分団、田野々分団では、毎月1回の水門点検を実施していますが、出水期となるこの時期は、点検回数を月2回に増やし、河川氾濫に備えています。

台風や豪雨による洪水被害の対策として、「土のう」の設置が効果的とされています。消防団では、素早く土のうを作る訓練や土のうの積み方を学ぶ訓練なども実施しています。



大雨警報などの気象警報が発表された際、状況によっては消防団が招集されます。そのような時、管内を巡回し、河川の水位や波の高さなどの警戒にあたります。

消防団長を直撃インタビュー



橋本 章一 さん
四万十消防団長

四万十消防団の最前線で指揮を執る橋本消防団長から、団員へのメッセージをいただきました。

消防団員の皆さんへ

各々に家庭や仕事を持つ中で、住民の生命、財産を守るという消防団の任務は、「本当に大変だと思うが、町民のために頑張ってもらいたい」。その一言に尽きます。

消防団員と消防職員の違い!?

消防団員と消防職員の違いを皆さんはご存じですか。

消防職員は、消防署や消防本部に勤務する常勤の地方公務員です。消防団員は、普段は別の仕事を持ちながら、地域で火災や災害が発生した時には、自宅や職場から現場に駆け付ける、非常勤特別職の地方公務員です。

経験と知識と団結力で地域を守る

特集

豪雨災害に備える四万十消防団



火災や地震などの災害が発生した際、地域を守るために直ちに現場に駆け付ける人たちがいます。それも、皆さんの住んでいる身近な場所に。それが「四万十消防団」です。

彼らは、もしもの時、自宅や職場からいち早く現場に駆け付け、消防職員と連携して、地域の安全を守っています。

消防団と聞くと、火災現場での消火活動をイメージする方も少なくないでしょう。しかし、本格的な出水期を迎える今、彼らの敵に、「水」が加わります。

近年、全国各地で記録的な豪雨が発生し、河川の氾濫など、甚大な豪雨災害が発生しています。

今回の特集では、そんな豪雨災害から、私たちの暮らしを守ろうと日々、献身的に活動する「四万十消防団」を紹介します。



勝賀野地区で発生した大規模な土砂災害。流出した大量の土砂が田畑や住居を襲った。



四万十川本流の水位が上昇して発生した内水氾濫。本町・上本町商店街も冠水した。



窪川浄水場の浸水により、窪川地域では大規模な断水が発生。自衛隊も救援に駆け付けた。



吉見川の増水により冠水した吉見川橋。



若井沈下橋は橋桁と橋脚が流失。



打井川橋の橋桁に迫る四万十川の濁流。

「10年前を忘れない…」

平成26年水害

皆さんは、平成26年（2014）8月に発生した、台風11号の影響による豪雨を覚えていますか。

四万十町窪川で、48時間降水量が666mmを観測するなど記録的な豪雨となり、窪川地域を中心に280棟以上の住家や店舗が浸水被害を受けました。